この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

吉祥寺東町二丁目にて

no.61

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この絵は、昨年の夏、前方に東京女子大学の森を見ながら描いたものである。

ところで、夏が来る度に思い出すことがある。約二十年前のこと、スケッチ講師として十数名の参加者と共に、サンクトペテルブルクの夏の宮殿を訪れたことがあった。

私たちがバスを降りて、宮殿に向かって歩き出すと、前方から日本の曲、「夏が来れば思い出す…」が流れてきた。私たちを日本人と知っての歓迎の演奏だと思うと、うれしくなってきた。近づくと中年の男性二人が、笑みを浮かべてバイオリンを弾いていた。

私たちが手を振って彼らの前を通り過ぎた頃、突然音が止んだ。振り向くと、彼らの一人が、逆さに持ったシルクハットを差し出すように、駆けて来るではないか。あっそうかという思いで、私たちは急いで小銭を帽子に投げ入れた。今でも、この曲を耳にする度に、あの時のほろ苦い思い出が甦ってくる。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすか かずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。

大須賀一雄「透明水彩の世界展」2016年7月28日（木）～ 8月3日（水）／東急百貨店吉祥寺店8階美術サロンで開催